

第5期 雄武町総合計画

後期実施計画書

様式1

No. 09010100

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町酪農振興会	関係課	#N/A	
事業指標	酪農ヘルパー利用の向上	関係課	#N/A	
事業目標	専任ヘルパー 6名体制	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	無	関係例規・法令名	無	
		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	農業後継者の育成、確保には、農業者の他産業従事者並みの労働時間の確保も重要であることから、農休日等を設定し快適でゆとりある環境の整備を図るために専任ヘルパーの増員、確保に努める。 また、緊急時等におけるヘルパー利用に対応するためにも専任ヘルパーの増員確保は重要であり、人材確保の推進により充実した農業経営が行えるよう努める。	専任ヘルパー1名増による事業運営費の助成 2,000 千円	専任ヘルパー6名体制に係る事業運営費の助成 3,000 千円	専任ヘルパー6名体制に係る事業運営費の助成 3,000 千円	専任ヘルパー6名体制に係る事業運営費の助成 3,000 千円	専任ヘルパー6名体制に係る事業運営費の助成 3,000 千円
	事業費(千円)	14,000	2,000	3,000	3,000	3,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	14,000	2,000	3,000	3,000	3,000
	その他	0				
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	5,000	2,000	3,000		
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	◎起債(過疎対策)	【評価・実績】	選任ヘルパー4名体制の維持	選任ヘルパー6名体制の維持		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	4名体制維持	6名体制維持	6名体制維持	6名体制維持
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%
	全体達成率	14%	36%	36%	36%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業	評価者	管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者	作成者 職氏名	農務係長	南 慎一

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	酪農ヘルパー制度利用農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	選任ヘルパー数	
【抱える課題やニーズは】	労働力の不足による農休日の不足	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	ヘルパー制度整備による労働力負担軽減と休日の確保	① 選任ヘルパー6名の確保	目標年度	平成26年度
			目標値	6名
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	酪農家の健康で文化的な生活の推進	②	実績値	6名
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	6名体制整備に係る事業費	酪農振興会に対し、事業費の一部補助を行った。	目標年度	平成26年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	周年拘束性の高い酪農家の生活環境の維持・向上を図るため、必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	ヘルパー6名体制が整備され、酪農家の労働力の負担軽減が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業費は補助金のみで計上であり、コスト削減の余地はない。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	酪農振興会が本補助金の他、利用者から負担金を徴収して運営しており、また、酪農業全体の生活環境の維持・向上につながるものであることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	6名体制の整備により多くの酪農家の利用が可能となり、酪農業全体の生活環境の維持・向上につながる。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/現状維持	
	酪農家の担い手不足や高齢化により、ヘルパー制度のニーズは増しており、本事業を継続して実施して行く必要がある。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止